

13. 東アジアの比較優位構造に関する調査

東アジア地域は世界の生産拠点として急速な発展を遂げ、その生産品は日本、米国の他、世界各国に輸出されている。またそうした生産に必要な資材や部品、生産設備などの輸入を通じ、世界貿易の発展に大きく寄与している。本調査では、こうした東アジアの貿易構造の財別分析を基本に比較優位の実態を検証し、合わせて東アジアの競争力を示す指標として、直接投資関連指標、サービス関連指標、東アジアにおけるビジネス展開の指標として、IT 関連インフラ指標を整理した。

比較優位の実態については、顕示比較優位指数（RCA 指数）を利用した。『ITI 財別貿易マトリックス』によるデータを利用し、東アジア各国・地域の RCA 係数のほか、主要な貿易相手国である米国、日本、EU、さらには中国との貿易においても同様に RCA 係数を算出、東アジア各国・地域が主要国との貿易において、どのような財に比較優位を持つかを分析した。ASEAN を主眼に相手国別に分析したところ、ASEAN 全体としては一般機械、電気機器に比較優位を持ち、特に対米貿易においては、電気機器（マレーシア、フィリピン、タイ）、合成繊維・同織物（インドネシア、フィリピン、タイ）、一般機械（マレーシア）など、対世界貿易で有する比較優位が更に強く現れていた。

また近年、台頭が著しい中国の貿易を『ITI 財別貿易マトリックス』からピックアップし、輸出・輸入とも財別に貿易相手国上位 35 カ国・地域を見た。

競争力指標としては、東アジア諸国・地域が総じて輸出指向型の経済発展のために、積極的に外国資本を呼び寄せたことから、直接投資や投資収益の状況を中心に整理した。直接投資のフロー、残高のほか、投資収益（エクイティー分、再投資分）など基礎データから投資収益なども算出した。またビジネスサービスについては、サービス貿易から輸送関連、特許料使用料、通信などのデータを整理した。企業進出の上で重要な決定要因となる IT 関連インフラについては、通信回線の普及状況やインターネットのホスト数など、日本を含む東アジア諸国・地域について全て抽出した。